

平成 30 年度 第 28 回全国女性建築士連絡協議会（高知）

協議会実施要項

目 次

平成 30 年度 第 28 回全国女性建築士連絡協議会（高知）プログラム（案）	1
基調講演	3
分科会概要一覧	4
会場案内図	7
大交流会のご案内	10
エキスカージョンのご案内	11

平成 30 年度 第 28 回全国女性建築士連絡協議会（高知）プログラム（案）

未来へつなぐ居住環境づくり
～ 一周おくれで先頭に 伝統こそ最先端 ～

7月28日（土）

総合司会：本間 恵美

【 全国女性委員長（部会長）会議 】

12：00～13：45

会場：高知県立県民文化ホール 第6多目的室

【 受付 】

13：00～14：00

会場：高知県立県民文化ホール グリーンホール

【 開会式 】

14：00～14：30（30分）

- ・主催挨拶 日本建築士会連合会会長 三井所 清典
- ・ご来賓挨拶 高知県知事 尾崎 正直
- ・中四国建築士会協議会代表挨拶 香川県建築士会会長 遠藤 孝司
- ・開催県挨拶 高知県建築士会会長 依光 成元
- ・委員長挨拶、運営説明 日本建築士会連合会女性委員長 小野 全子

【 被災地の現状報告 】

14：30～15：30（60分）（20分×3県）

- ・宮城県建築士会
- ・福島県建築士会
- ・熊本県建築士会

休憩 15：30～15：45（15分）

【 基調講演 】

15：45～17：15（90分）

- ・講師： やまもと ひさみ 山本 長水 やまもとちようすい（山本長水建築設計事務所主宰 建築家）

【 大交流会 受付 】

18：00～18：30

会場：三翠園 富士の間

【 大交流会 】

18：30～20：30

【 夜のエキスカッション 】（二次会）21：00～22：30

7月29日(日)

総合司会：山中 路代

【分科会】

9:00~11:00 (120分)

会場：高知県立県民文化ホール 多目的室、高知会館

- ・ A分科会「防災への取り組み」
司会者：土居 純子 (高知県建築士会)
コメンター：北山 めぐみ (高知県建築士会)
- ・ B分科会「建築女子がきづく未来」
司会者：石貫 方子 (大阪府建築士会)
コメンター：三宅 登美恵 (大阪府建築士会)
- ・ C分科会「歴史的建造物と建物再生」
司会者：本間 恵美 (北海道建築士会)
コメンター：曾我部 千鶴美 (大阪府建築士会)
- ・ D分科会「会員拡大に向けた取り組み」
司会者：満原 早苗 (佐賀県建築士会)
コメンター：本房 美保 (鹿児島県建築士会)
- ・ E分科会「自治体連携とまちづくり」
司会者：新海 直美 (北海道建築士会)
コメンター：村越 千幸子 (山口県建築士会)
- ・ F分科会「地産材」活用の取り組み
司会者：小林 淑子 (宮城県建築士会)
コメンター：松橋 雅子 (秋田県建築士会)
- ・ G分科会「高齢社会と住まい」
司会者：筒井 裕子 (愛知建築士会)
コメンター：竹中 美智子 (愛知建築士会)
- ・ H分科会「既存民家の活用」
司会者：多羅尾 直子 (東京建築士会)
コメンター：赤尾 苑香 (徳島県建築士会)

全体会会場へ移動 11:00~11:20 (20分)

【全体会】

11:20~12:10 (50分)

会場：高知県立県民文化ホール グリーンホール

- ・ 分科会報告
各分科会司会者
- ・ 全体講評
日本建築士会連合会女性副委員長 山中 路代
- ・ 平成30年度全国女性建築士連絡協議会アピール
日本建築士会連合会女性委員長 小野 全子
- ・ 第61回全国大会さいたま大会参加のご案内
埼玉建築士会女性委員長 中野 万紀子
- ・ 開催県挨拶
第28回全建女実行委員長 岡本 佐代子
- ・ 閉会の辞
日本建築士会連合会女性副委員長 山中 路代

【エキスカージョン】

12:30~(16:20~18:00) [6コース 昼食付き]

基 調 講 演



山本 長水(やまもと ひさみ)

山本長水建築設計事務所主宰 建築家

1936年高知県生まれ。土佐高校を経て1959年 日本大学工学部(現理工学部)建築学科卒業。1959年-1964年市浦建築設計事務所勤務。1963年一級建築士取得、建築士会入会。1964年-1966年猪野工務店勤務。1966年10月山本長水建築設計事務所を開設、現在に至る。高知女子大学、高知大学非常勤講師を務める。2001年～高知工科大学客員教授。1978年-1992年高知県建築設計監理協会会長、1992年-1996年日本建築家協会四国支部長、1993年-1994年及び1998年-2003年高知県建築士会理事、2002年-2004年日本建築学会四国支部長。1984年建設省「いえづくり'85プロジェクト提案競技」特別優秀提案(建設大臣賞)グループ代表者、1996年優良木造施設農林水産大臣賞、1998年日本建築学会作品選奨、1999年日本建築学会賞(作品部門)、同作品選奨、高知県文化賞、2002年JIA25年賞、日本建築家協会名誉会員、2007年優良木造施設林野庁長官賞、2012年日本建築学会名誉会員。主な編著書に「土佐派の家 PART 1～3」(共著)、「建築家の土着」。

分科会概要一覧

分科会名称	コメンテーター	概 要
A分科会 「防災への取組み」	北山 めぐみ (高知県建築士会)	<p>高知県では、南海トラフ地震とそれに伴う津波の発生が予測され、ハード・ソフト双方からの防災対策が進んでいます。</p> <p>そこで高知県建築士会では、リスクコミュニケーションを図り防災意識の向上に資する「逃げ地図づくり」のワークショップの学習と実践に取り組んでいます。</p> <p>「逃げ地図」とは、建築における時間避難距離の考え方をまちなかの避難に応用した「時間避難距離地図」を指します。</p> <p>ワークショップ参加者全員で、避難所から3分間で避難できる距離を一色ずつ塗り分けてゆき、まちの様々な場所から何分で避難できるかを誰にでもわかりやすく示すことができます。子どもでも簡単に作成することができ、また、作成過程でまちあるきの実施や道路の安全性について話し合うことで、主体的な災害時対応を考えることにつながります。</p> <p>今回は、この「逃げ地図づくり」の考え方や高知県での実践例を学んだ後に、実際に逃げ地図ワークショップを行います。</p> <p>「逃げ地図づくり」を皆さまと一緒に学び、よりよい防災教育ツールとしていけるよう意見交換を行いたいと思います。</p>
B分科会 「建築女子がきづく未来」	三宅 登美恵 (大阪府建築士会)	<p>各都道府県建築士会の女性委員会活動も30年近く経過しますが、日本の建築業界における女性の地位や男女格差はいまだ厳しい状況にあると言わざるをえません。社会における男女格差を示すジェンダーギャップ指数では、日本の格差は144か国中114位と先進国の中でも最下位となっており、年々順位が後退しており、海外の文献では日本女性の貧困問題が取り上げられるという状況です。しかし、日本はこれから超高齢社会となり働き手を確保するためには女性が頑張れる社会とならなければなりません。</p> <p>大阪府建築士会では女性分科会30周年記念事業として「建築女子がきづく未来」と題し建築関連の女性100名が集まってワールドカフェ方式でのワークショップを行いました。建築に関わる女子たちが集合し、「なぜ建築にかかわっているのか」「建築女子が活躍するために必要なものは?」「建築女子が考える魅力的な社会・都市・建築・まち」をテーマに、異なる職域や立場から思うことを語り合い共感することで、みんなで元気を共有しようというものです。</p> <p>B分科会では建築女子の様々な意見とともに、これからの日本の建築業界の姿について意見を語り合いたいと思います。</p>

<p>C分科会 「歴史的建造物と建物再生」</p>	<p>曾我部 千鶴美 (大阪府建築士会)</p>	<p>「歴史的建築物の活用に向けた条例整備ガイドライン」が策定され、建築基準法の適用除外に向けた動きや歴史的資源を活用していこうという機運が高まっていますが、歴史的建造物の維持・保全と活用は、まだまだ地域での課題となっています。</p> <p>住吉大社御鎮座 1800 年の年に、住吉区役所は、受け継ぐべき人や物の一つとして区内に点在する蔵に着目しました。しかし、区内にいくつ蔵があり、それらがどのような形状でどのように使われているのか等の資料はなく、100 を越える蔵の調査を目的に、大阪府建築士会の会員が中心となって「住吉蔵部」を発足し、平成 24 年度と平成 28 年度の 2 度の全数調査から、それぞれ「すみよし蔵ものがたり」、「すみよし蔵ものがたり 2」を発刊しました。蔵をなんとか維持・保全、活用できないかとの思いから、区民向けのセミナーの開催や蔵を見つけるまち歩きを実施。蔵の実測調査を行って図面と模型を作成するなど、一連の活動について報告していただきます。</p>
<p>D分科会 「会員拡大に向けた取組み」</p>	<p>本房 美保 (鹿児島県建築士会)</p>	<p>建築士会では、多くの単士会または地区で「会員の減少」や「活動会員の固定化」等の問題を抱えながら活動を行っています。鹿児島県建築士会では会員拡大に向けた新たな取組として、平成 28 年度、女性部会の主催により県内の建築業界で働く女性 100 名を募り「あなたにとっての豊かな暮らし」をテーマとしたイベント「けんちくおごじょ大集合！」が開催されました。会員・非会員を含む、各業種・各世代の女性が集うきっかけの場となり、ネットワークが広がりました。平成 29 年度は、「ミニセミナー」と題した講演やセミナーの継続的な開催、地域の建物見学会等の事業が展開されています。</p> <p>これらの取組について、また、その先にめざすものは何であるのかを本分科会のテーマとして議論したいと思います。</p>
<p>E分科会 「自治体連携とまちづくり」</p>	<p>村越 千幸子 (山口県建築士会)</p>	<p>街並みや景観などをより豊かなものにするために、全国でも様々な取り組みが行われています。今回ご紹介するのは山口県周南市の事例です。2017 年 6 月、建築士会有志によりつくられた“まち塾景観デザインチーム”が「まちの景観作法書」を作成し、周南市へ贈呈しました。作法書とは一体どのようなものなのか、つくられた経緯や贈呈に至るまでの活動について報告を頂きます。参加者の皆さまの地域での取り組みなども伺いながら、建築士がどのようにして自治体や住民の方と連携できるかなどについて意見交換を行えたらと思います。</p>

<p>F分科会 「地産材」活用の取組み</p>	<p>松橋 雅子 (秋田県建築士会)</p>	<p>「秋田杉」は、秋田県が誇る優良な建築材料として認められていましたが、工期短縮・量産化・効率化・低コスト化などにより集成材や新建材に占められているのが現状です。この現状を打開し、秋田県内外のマイホーム建設に「秋田杉」の利活用をアピールすることを目的に、秋田県のバックアップで全県各地に誕生した、供給グループのひとつ、『秋田スギネットワークたかのす（平成14年10月、旧鷹巣町内の設計事務所、工務店、設備工事業者、建材店、製材所、プレカット工場、森林組合で構成された「秋田スギの家」供給グループ）』が、県の補助金終了後、次々と他グループが活動を終了する中、取り組んできた建築・技術・習慣など「家づくり」に関する様々な仕事を知ってもらおう活動（木育、段ボールハウス、「木の積み木（秋田杉）」ウッドデザイン賞受賞など）について報告して頂きます。</p>
<p>G分科会 「高齢社会と住まい」</p>	<p>竹中 美智子 (愛知建築士会)</p>	<p>日本は今、世界に類を見ない急速な高齢化を経験しており、国は団塊世代が75歳以上になる2025年へ向けて、いつまでも在宅生活が続くようにと、地域包括ケアシステムを推進しています。高齢になっても住み慣れた地域でその人らしい生活が継続できるように地域包括ケアの実現に向けて、市町村や地域包括センターが中心となり多職種協働による地域ケア会議が開催されています。特に地域における住まい方の向上においては、ソフト・ハード両面でアセスメント(評価)ができる建築士の役割は大きく必要不可欠であり、地域のコミュニティアーキテクトとしての役割もあります。福祉用具貸与事業所として活動している建築士兼社会福祉士の介護保険現場での体験談や、昨年始まった愛知建築士会福祉のすまい特別委員会の活動をご紹介いただき、福祉の現場での建築士の重要性や地域活動に参加する意義について、意見交換を行いたいと思います。</p>
<p>H分科会 「既存民家の活用」</p>	<p>赤尾 苑香 (徳島県建築士会)</p>	<p>「サテライトオフィス」「アート」「移住」、近年メディアで紹介していただく機会が多い徳島県神山町は、吉野川の支流である鮎喰川沿いに農地と集落が点在する山々に囲まれた町です。山手線3つ分の面積に約5,400人の人々が暮らし、高齢化率は50%を超え、子どもの数は総人口の約5.4%、空き家は600軒を超えます。少子高齢化による人口減少が加速するこの町で、2015年から地方創生に取り組んでいます。建築や教育、仕事など複数の領域を横断的に進める神山町の創生戦略「まちを将来世代につなぐプロジェクト」のうち、空き家となった民家の改修を通じた社会資本整備と、町の次世代を担う工務環境づくりを試みる「民家改修プロジェクト」を中心に、等身大の町の取り組みを報告させていただきます。神山の既存民家を活用した「すまい」を題材に、皆様と意見交換できればと思います。</p>

会場案内図

7月28日(土)

- ・全国女性委員長(部会長)会議 12:00~13:45 ① 高知県立県民文化ホール 第6多目的室
- ・受付・開会式 13:00~17:15 ① 高知県立県民文化ホール グリーンホール
- ・被災地の現状報告・基調講演
- ・大交流会 18:30~20:30 ② 三翠園 富士の間

7月29日(日)

- ・分科会 9:00~11:00 ① 高知県立県民文化ホール 多目的室
③ 高知会館
- ・全体会 11:20~12:10 ① 高知県立県民文化ホール グリーンホール



「高知県立県民文化ホール」 アクセス方法

飛行機（高知龍馬空港より）

- ① タクシー（約 30 分）
- ② 空港連絡バス（約 25 分）

「高知龍馬空港」から、「高知駅」「はりまや橋観光バスターミナル」行に乗車
⇒「はりまや橋観光バスターミナル」で下車

「はりまや橋観光バスターミナル」から

A : タクシー（約 5 分）

B : 路面電車（約 10 分）

「デンテツターミナルビル前 5 番」から

「いの」「鏡川橋」「朝倉」「杣形」行に乗車 ⇒「県庁前」下車 ⇒ 徒歩 3 分

自動車（高知 IC より）

- ① 車（約 20 分）[周辺有料駐車場をご利用ください]

高速バス・JR（JR 高知駅より）

- ① タクシー（約 10 分）
- ② 路面電車（約 20 分）

「高知駅前」から、栈橋行に乗車 ⇒「はりまや橋 4 番」下車

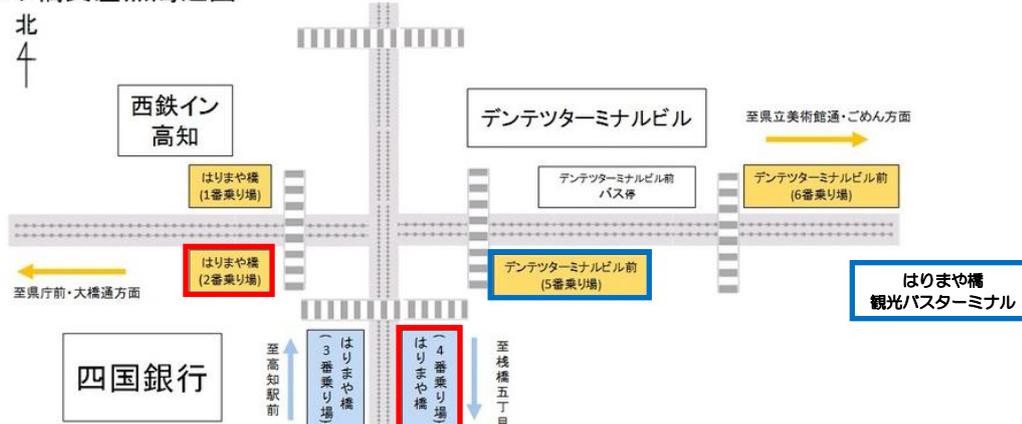
乗換 「はりまや橋 2 番」から、「いの」「鏡川橋」「朝倉」「杣形」行に乗車
⇒「県庁前」下車 ⇒ 徒歩 3 分

※ とさでん交通「路面電車」について

乗車時には整理券を取ってください。運賃は降車払い(大人 200 円)。

乗り換え時は運転士より、運賃と引き換えに乗り換え券をお受け取りください。（「乗り換え券下さい」と言ってくださいね）降車時に整理券と乗換券を運賃箱に入れます。

はりまや橋交差点周辺図





高知駅から高知県立県民文化ホールへ



高知空港から高知県立県民文化ホールへ

大交流会のご案内

高知と言えばカツオのたたき、新鮮な夏野菜や魚介、辛口の地酒、アイスクリン・・・

地元ならではの食材による料理やお酒をお楽しみください。

会場の三翠園は、幕末に西郷隆盛と酒豪の土佐藩主・山内容堂が会見を行い、

明治維新の基礎を確立した由緒ある土佐藩主山内家下屋敷跡に建っています。

入り口大門横の「旧山内家下屋敷跡長屋」は、国の重要文化財に指定されています。

皆さまも幕末にタイムスリップした気分で、全国の方々と語り合い、

心ゆくまで土佐の宴をご堪能下さい。



記

【大交流会】

日時： 7月28日(土) 18:30~20:30
受付 18:00~18:30 (ウェルカムドリンクあります)
ワンバイワン 18:30~19:00
(各ブロックから2県程度の活動紹介、近況報告など)
乾杯 19:00
会場： 三翠園 富士の間 (高知県高知市鷹匠町1丁目3-35 TEL:088-822-0131)
会費： 6,500円

【夜のエキスカッション】(二次会)

日時： 7月28日(土) 21:00~22:30
会場： お楽しみ(ディープなメンバーがご案内します)
会費： 3,000円

※ 大交流会、夜のエキスカッションに参加ご希望の方は、「参加申込書」の交流会欄にそれぞれ○を付けてください。参加費の振り込みについては、後日ご案内をさせていただきます。

エキスカーションのご案内

「人が好き 食が好き -おもてなし天国 高知-」

高知県は、高知市を中心に東西移動に車で約5時間を要します。

しかも、公共交通機関の便は少数で、移動には車が不可欠です。

そこで、高知市以外の高知県を知って戴きたいと思い、バスを手配しました。

市内から出ると、そこには「南国土佐 高知」を彷彿とさせる青い空や、伸びゆく緑の風景が広がります。この自然豊かな地域に根付いた文化や建築を、みなさまにご紹介すると共に、土佐人気質や豊かな食もまた「南国土佐 高知」に欠かせない要素です。

皆さまのご参加を心よりお待ちしております。



記

日 時 : 7月29日(日) 12:30~(16:20~18:00)

(終了時間はコースによって異なります)

コース概要 : 別添-1 「人が好き 食が好き -おもてなし天国 高知-」

エキスカーションのお知らせをご確認ください。

※ エキスカーションに参加ご希望の方は、「参加申込書」のエキスカーション欄にコース番号を記載してください。参加費の振り込みについては、後日ご案内をさせていただきます。